

saveMLAK ニュースレター

第 69 号

年次報告会オンライン開催のお知らせ

saveMLAK 報告会 2021 を 6 月 27 日（日）にオンライン開催いたします。詳細なプログラムならびに参加案内などにつきましては、現在調整中ですので、改めてのご案内をお待ちください。メーリングリストにて最新のお知らせをご連絡しますので、よろしければこの機会に登録をお願いします。

< saveMLAK 報告会 2021 >

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20210627>

日時：2021 年 6 月 27 日（日）14:00～17:00

場所：オンライン *Zoom 使用予定

プログラム（予定）：

第 1 部 第 123 回 saveMLAK Meetup

第 2 部 基調講演+インタビュー

「savelibrary から saveMLAK へ

-3.11～4.11 の 1 ヶ月を思い出す」(岡本真)

(インタビュアー：江草由佳、谷合佳代子)

Zoom 交流会

saveMLAK 会計

2021 年 2 月～2021 年 4 月期（合算）会計報告

収入

受け取り利子 ￥3

2021 年 4 月 22 日現在残高 ￥1,046,623

【糸野泰輔／saveMLAK ファンド係】

2021 年 3 月～4 月の出来事と今後の予定

3 月 22 日

第 120 回 Meetup を開催

4 月 9 日～11 日

第 17 回 COVID-19 図書館動向調査を実施

4 月 22 日

第 121 回 Meetup を開催

5 月 7 日～9 日

第 18 回 COVID-19 図書館動向調査を実施予定

5 月 22 日

第 122 回 Meetup を開催予定

6 月 27 日

年次報告会をオンライン開催予定

COVID-19 図書館動向調査へのお誘い

saveMLAK では、COVID-19 の影響による図書館動向調査を、2020 年 4 月より実施しています。2021 年 4 月時点で第 17 回まで実施され、今後も継続予定です。どなたでも参加いただける調査ですので、ぜひご参加ください。また調査データは CC0 で公開していますので、自由にご活用ください。

ニュースレター第 65 号でもご紹介した通り、2020 年 7 月 30 日発行のカレントアウェアネス-E にてこの図書館動向調査の記事が掲載されました（※1）。そして、2021 年 3 月 31 日には、その英訳版が公開されました（※2）。この調査がどのように行われているかという点については、この記事をご覧ください。記事は COVID-19 libdata チームが執筆し、CCBY で公開されています。以下に転載します。

※1: E2283 - 現在 (いま) をアーカイブする : COVID-19 図書館動向調査 カレントアウェアネス-E No.395 2020.07.30 <https://current.ndl.go.jp/e2283>

※2: E2283e - Archiving the Moment: Investigation on COVID-19 Public Library Trend 2021.03.31 https://current.ndl.go.jp/en/e2283_en



現在（いま）をアーカイブする

： COVID-19 図書館動向調査

saveMLAK COVID-19libdata チーム

●カーリルから saveMLAK へ

saveMLAK は、2011 年の東日本大震災をきっかけに、被災した MLAK（美術館・博物館、図書館、公文書館、公民館）の情報を集約し、ウェブサイトでの公開を行っている。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大に伴い、2020 年 4 月 7 日に、政府による一部都府県を対象とした緊急事態宣言が発出された。その直後である 4 月 9 日、株式会社カーリルによる全国の図書館休館調査の結果が発表された。この結果を受け、4 月 12 日、saveMLAK 有志の打ち合わせにて COVID-19 に関する取り組みが検討された。

COVID-19 は地震等の自然災害とは異なるが、多くの図書館が休館することとなった。現状を記録するために、全国の図書館の状況のスナップショットを保存するような、継続した一斉調査の必要性が話し合われ、カーリルだけの調査は困難なことから、saveMLAK に引き継がれることとなった。第 2 回調査より、この趣旨に賛同する有志が参加し調査が行われた。

●調査に携わって

この調査は全国の公共図書館・図書室等のウェブサイトを目視で確認し、Google のスプレッドシートに記録する方法で実施した。調査対象のウェブページは Internet Archive や Archive.today といったウェブページ保存サービスを活用し、収集時点のウェブページを見られるようにした。毎回の調査前に凡例を整理し、開館状況や休館中でも行っているサービスを類型化できるようにした（図書館が「開館」と記載していても、開架エリアに進入できない場合は「休館」扱いにするなど）。凡例は図書館の動向に合わせて都度更新し、できるだけ実態に即したものにした。

誰でも参加できるように調査参加者は公募し、「できる人ができるだけ」行った。第 8 回までに北海道から沖縄県まで日本全国から延べ 238 人の有志が参加し、累計 1 万館超の図書館を調査した。参加者は Slack を使ってコミュニケーションを取り、調査の疑問点を相互に解決していった。また、Zoom を用いてミーティングをしながら毎回の調査結果に

関するプレスリリースを共同編集するなど、各種ツールを使い全てをオンラインで進めていった。

苦労した点はエビデンスとなるウェブサイトアーカイブすることだ。保存したいウェブページの URL が開くたびに変わる、調査時に URL を保存しても調査時点でのウェブページがアーカイブでうまく呼び出せなかったり、海外のウェブサイトからのアクセスを弾く設定になっていて保存できないケースもあった。複数のインターネット保存サービスを併用したり、地方公共団体のウェブサイトや SNS の投稿を代わりに保存するなど試行錯誤を重ねた。

●調査から見えてきたもの

まず、本調査の主要指標の休館率は、第 2 回（4 月 16 日）57%、第 3 回（4 月 23 日）88%、第 4 回（5 月 6 日）92%と休館の全国拡大が如実に現れた。ひとつの要因と考えられる、緊急事態宣言発出との関連性をグラフやマップにより可視化する方法を採った。第 3 回調査では、4 月 16 日に特定警戒地域に指定された 13 地域の休館率が顕著に上昇した。それ以降、各都道府県で発出された図書館はじめ MLAK 機関に対する休業要請に関して、措置調査を第 6 回調査（5 月 21 日）まで継続的に実施した。休業要請の延長が休館継続の意思決定に影響を及ぼしたことが、明らかとなった。

合わせて図書館サービスの動向調査も行った。休館率の高さと相まって、資料の郵送宅配、電子書籍、デジタルコンテンツの利用促進やオリジナルコンテンツ配信等の事例が見られた。緊急事態宣言が解除されると、入館記録やロードマップ提示等の再開館のための動きが活発になった。第 8 回（6 月 20 日）では、1.6%の休館率となり調査はほぼ区切りを迎えた。

以上が、個人の調査では成しえない、意思を同じくする全国有志による集合知が創り出したデータから見えてきたものである。公開情報をベースに、図書館等が利用者いかに情報を提示しているかを確認できた。現場の担い手自身が本調査への参加を通して全国の状況を認識し、それぞれの事業や政策に資するであろう情報を生み出したことは、得がたい経験となった。

●「アフターコロナ」と言われる時代に向けて

COVID-19 により日本全国で外出が阻まれる事態となり、本調査は、調査する全員が当事者であった。



1時間・26館・1.5%・1,718館・24人・81時間・26館・1.5%・1,718館・24人・81時間・26館・1.5%・1,718館

これからのスキル オンライン作業の 体験もできるチャンス、一緒に楽々

ぜひ、一緒に!
for Lib

ライブラリアンが何かいまできること…
＜呼びかけ人＞
saveMLAK COVID-19libdataチーム

このデータ一元化ワークショップ企画は、saveMLAKのプロジェクトとして、アカデミック・リソース・ガイドさんや、カールルさんのご協力で、データ化作業やワークショップの運営などを進めていただいています。ぜひ、宿さんでノッてください。

全国の図書館の開閉館状況をみんなで一つにデータ化も、もう第10弾！
色々な人がちょっとずつでも参加してみられるように対象日を3日間に

3日間にかけてやります。3日間のいずれかの日に調査協力していただける方

●インターネットを使って作業内容や調査データのやりとりができる方
●今、ライブラリアンとしてどんなことができるだろう？、何かできることはないだろうか？と探している人も。

＜参加メンバー募集＞
調査状況によって、一斉調査を継続する場合があります。

＜ワークショップ内容＞
普通にPCスキルのある人なら簡単です！
全国どこからでも可能

- ①作業内容や調査データのやりとりはCode4Lib JAPANの公開Slackで行います。チャンネル「#covid19-libdata」で確認してください。（※Slackについては下記連絡方法の項で）
- ②自分の担当したい地域を宣言して調査に着手します。（※終了宣言や応援募集コールなども可能）
- ③担当エリアの図書館の開閉・閉館状況を調査し、指定のスプレッドシートに入力
- ④対象館のウェブサイトや各公共団体のウェブサイトなどにあるものを確認し、凡例にそって入力。

＜応募方法・連絡方法＞
都道府県内の一部エリアの担当でもOK。応募後、宣言して作業開始。

- ①データ集約作業に必要ですので、Googleアカウントを持っていない方は取得してください。
- ②「Slack」のサイトまたはアプリにサインインして「Code4Lib JAPAN」の公開Slackに参加
- ③公開Slackのチャンネル「#covid19-libdata」に参加し、データ入力に参加したいと申し出てください。
- ④入力用のスプレッドシートへの入力権限を付与してもらおうとスタートできます。

1時間・26館・1.5%・1,718館・24人・81時間・26館・1.5%・1,718館・24人・81時間・26館・1.5%・1,718館

参加者の1人である常川真央氏は、これまでsaveMLAKではウェブサイトにも各機関の情報を載せていく「ドキュメント志向」の調査が中心だったが、本調査は全国の公共図書館の情報を同時に1枚のシートに集約する「テーブル志向」だったと指摘する。

特筆すべきは、全国的な調査を1回につき2日から3日という短期間で、かつ約3か月間に8回も行ったことである。瞬間を一遍に輪切りのように切り取った8回のポイントを繋げ曲線を生み出すことで全体の流れが見えるようになった。調査で集まってきた「ドキュメント志向」にあたるベストプラクティス（先行事例）は、プレスリリースに反映させた。調査結果は後から検証できるようにし、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスのCC0で公開している。誰でも使いたい時に使える形で残すことを意識したためである。

状況が変わるにつれ、COVID-19が風化するかのようによろしく情報が消えていった。「現在（いま）」をアーカイブすることは「現在（いま）」しかできない。

本調査のように実際に集まらずとも短期間で最新情報を公表できるこの方法は、様々な場面で有用ではないだろうか。調査方法についても、活用しやすい形で遺していきたい。

編集後記

4都府県に3度目の緊急事態宣言が発出されました。COVID-19だけでなく、2月に起きた福島県沖地震による影響もまだ残っています。自由に遠方に出かけられませんが、オンラインでできることを少しでも積み重ねたいと思っています。毎月の図書館動向調査や6月の年次報告会など、自宅に居ながらにして参加できることもあります。私自身は調査に参加することで情報の発信と活用についても日々学んでいます。よろしければsaveMLAKのサイトもご覧になっていただければ嬉しいです。

【三浦なつみ：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2021年5月10日（月）（第69号）
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル
さくらWORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：https://savemlak.jp/

